

シンポジウム「極限の文化 - 人はどこで生きているか 生きられるか」
文化科学研究科学術交流フォーラム
国立民族学博物館第5セミナー室 2009年10月18日

医療変動期におけるケアと自己形成 19世紀アメリカの民衆健康運動の展開

国立民族学博物館
総合研究大学院大学文化科学研究科
鈴木七美

0 - はじめに - 1

「極限」におけるフロンティアの探究

- 「極限」 感覚・認識
 - 環境・知の変動 価値観のゆらぎ
- 「極限」 (客観)
- フロンティア
- アンテベラム期 (独立革命期 ~ 南北戦争)
 - 「一つのアメリカ」
- 「極限」 on edge, extreme situation
- “critical” 重大な 危機の
 - “critical break” 重大な運命の転換 大きなチャンス

0 - 2 極限(例) 個別・地域

南部アメリカの病気と治療

- 熱病、赤痢、天然痘、肺結核、寄生虫
- 天然痘、麻疹、ある種のマラリア、ジフテリア、発疹チフス、猩紅熱、インフルエンザ(ヨーロッパからの移民)
- マラリア、黄熱病、いちご腫、赤痢(奴隷)
- ヘビ毒
- 「アフリカの毒」 呪いによる
- 対象療法(瀉血、下剤…)
- 樹皮、スネークルート、苦味酒
- 鶏のスープ、卵、バター、ミルク
- 類感療法(パウワウ治療 ドイツ系移民)



0 - 3 地域のハーブ

Moss, *Southern Folk Medicine*,
1750-1825, 1999

Crellin & Philpott, *Herbal Medicine
Past and Present / Trying to Give
Ease*, 1989

St. Joneswort

Herbe de la Saint-Jean (聖ヨハネ草)

セント・ジョンズワート 黄色い花

切り傷や打ち身等によく効く。6月24日は夏至祭りの日で、この時分に摘んだ草には御加護が宿って薬効が強いといわれている。陰干し、オリーブ油やブランデーにつけて塗り薬を創る。

日本では近縁種のオトギリソウが止血や切り傷、やけどに効く民間薬。

2000.6.24

0 - 4

アメリカ南部の薬草治療 モラヴィア教徒のコミュニティ



『アメリカ合衆国南部における植物治療とハーブ・ガーデンの伝統と変容』平成10～12年度科研費研究成果報告書、2001

「改革派キリスト教徒の共同体 オールド・セーラム」『北アメリカの小さな博物館』2006



Feverfew 偏頭痛 (“In the worst headache this herb exceeds whatever else is known.” John Hill, *The Family Herbal*, 1772)2000.6.24

0 - 5 極限？ コミュニケーションの契機 ヘビ毒への対処

- ニガハッカ 解毒剤 蛇
- スネークルート(先住民 各種植物の根 burbane, senega root, etc.)
- トネリコの樹皮(樹皮は収斂剤)
- ニワトコ(elder スイカズラ科)を牛乳で煮て、内服・外用
- 吸い出す。かみタバコ、弾丸の粉、ヒマワリ、スネークルート、ユリノキの根の皮、インディアン・フィジック(トコン アカネ科、去痰、アメーバ赤痢の特効薬)、アメリカトコン(先住民:チェロキー)
- 「建国期南部の健康・治療・食養生」『アメリカのフロンティア』関西アメリカ史学会編、昭和堂、2010年

- 1 19世紀アメリカ医療の変動とオルタナティブ・メディスン
「一つのアメリカ」の医療構想？

- レギュラー・ドクター(ヨーロッパ)、医学校、病院登場
 - コレラ(19世紀のパンデミック)、黄熱病
 - heroic medicine(対炎症療法allopathy)強化
 - 多様な治療者の並立、広い国土、宗教者、good womanなどが治療を担っていたアメリカ的伝統
 - 民衆健康運動が、全土で半世紀間繰り広げられた。
 - 都市の成立、郵便、鉄道の整備。
 - 治療(者)の選択における個人の自由
-

ー2 アメリカ合衆国における医療の近代化 出産の歴史的变化

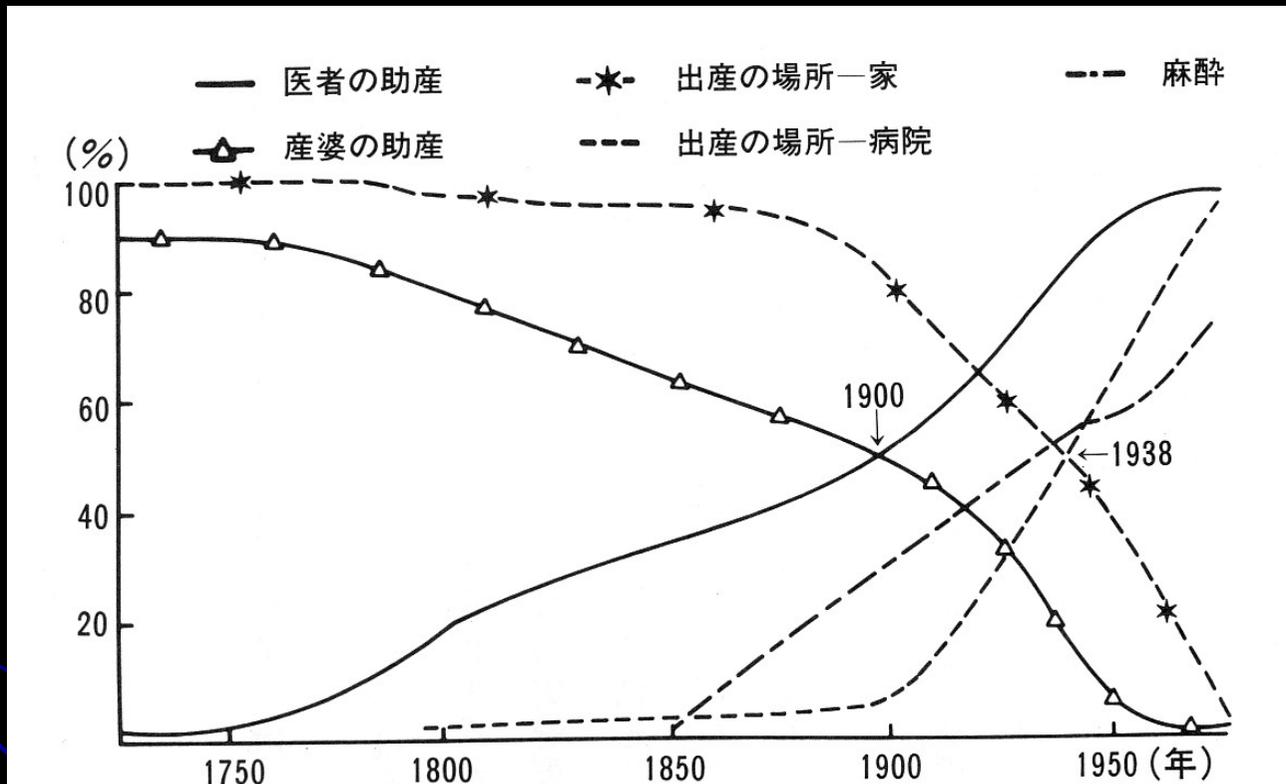


図1 アメリカ合衆国における出産の歴史的变化の傾向

出典：Leavitt, J. W., *Brought to Bed*, Oxford University Press, 1986, p. 12

Leavitt, J.W., *Brought to Bed*, Oxford University Press, 1986, p. 12をもとに作成
(鈴木七美『出産の歴史人類学 産婆世界の解体から自然出産運動へ』新曜社、1997年、10頁)

— 3

オランダの助産師が使用している出産の椅子



ハーレム(オランダ) 2001年9月 鈴木七美撮影

Gelis, Jacques, *L'Arbre et le fruit: La naissance dans L'Occident moderne XVIe-XIXe Siècle*, 1984 (*History of Childbirth*, 1991)

医者論の論理 “interference of art” “patient” “pain”

- 1763 W.シッペン(イギリスで学ぶ)が助産(フィラデルフィア) 1807年までに5つの助産学の課程 産婦人科(外科)の重視 産婆 / 医者(Philadelphia) 1851: 21/23, 1819: 13/42, 1824: 6/
- 「自然は十分とはかぎらない。技術による介入によってしか、患者を救えない場合もある。」
- 「痛み」は治療すべきもの
- 女たちの集合を批判。「多数の女たちを集めるという馬鹿げた習慣」 (W. Buchan, *Every Man His Own Doctor*, New Haven, 1816)
- すべての助産を医者が行うべき。産婆は無知・迷信的
「女性のみがほとんど唯一の助産者であったころからやっと半世紀たったが、アメリカの医学教育の発展の最初の最も喜ぶべきことは、女性が助産から除外されたこと。医学は発展し続けているのだから、正規の方法で教育された医者のみが産科を取り扱うのに適する。」 [W. Channing, *Remarks on the Employment of Females as Practitioners in Midwifery*, Boston, 1820]
(女性が助産などに携わると女性性が破壊される)

5 オルタナティブ・メディカル・ムーブメントの興隆

- 「イレギュラー・ドクター」「ニセ医者」「素人治療者」
- 植物治療運動 (Thomsonianism)
- 水治療運動 (Hydropathy Water Cure)
- ホメオパシー (同毒療法 Homeopathy)
- メスメリズム (動物磁気 Mesmerism)
- クリスチャン・サイエンス
- 先行研究: 医療史・・・現代の視点
- 鈴木七美『出産の歴史人類学 産婆世界の解体から自然出産運動へ』新曜社、2008、1997

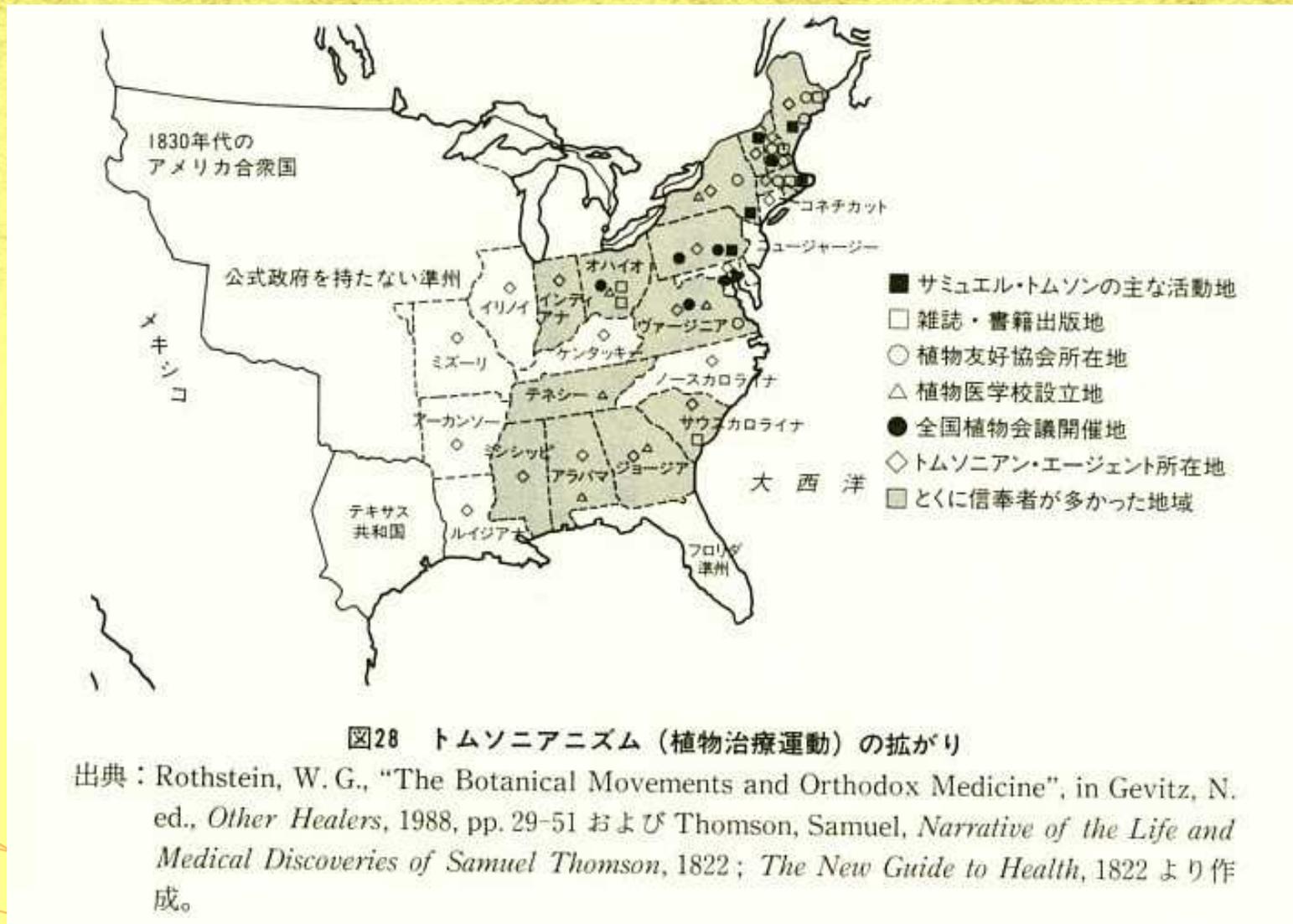


- 1 植物治療運動 (Thomsonianism) の展開

- 最初の代替医療運動 1830s ~ 1840s
- S. Thomson (1769-1843) 農夫
- *New Guide to Health, or Botanic Family Physician*, Boston, 1822
(13版まで ドイツ語版)
- *A Narrative, of the Life and Medical Discoveries of Thomson*, 1822
- 薬草関連雑誌(1833-1847)
- Family Right 100,000
- Friendly Botanic Societies
- Authorized agencies, Infirmaries, and Medicine depots
全ての州と領土[1830年代 300万人(人口1287万人)]
- First National Convention of Healers
- 1830s 医療免許制度が次々に廃止される(州ごとの制度)



ー 2 トムソニアニズムの広がり



出典：鈴木七美『出産の歴史人類学』1997年

－ 3 植物治療運動 (Botanical Movement)



- 「極限」: ケア活動からの阻害 (ケア: 配慮の束)
- 1. ヘロイック・セラピー (瀉血・水銀・あへん) への危惧
- 2. セルフ・ヘルプ 「ふつうの人々 common man」

- 理想: アメリカ開拓農夫の治療世界 「荒野に生まれて…」
- アメリカの大地と薬草 vegetable medicine = 自然の友人 friend of nature 輸入
- healing=cooking 「この地にやってきた頃...母親の処方によって健康を保ち病気から回復していた。」
- 「すべての病気に合った薬は我々の大地に自然に繁茂」
「自然の神 nature of God」(カイエンペパー、ロベリア、コンフリー、リンゴ)

- 3. 自律 自由の保持
- 「healing artが家庭の炉辺にもたらされ、すべての人々に理解されることを望む」
- faith in natural healing power (死も自然のみちゆき)
- (ワイルダー『大きな森の小さな家』1860s)

ー 4 アンテベラム期アメリカ社会の変動



- 都市化 人口増加 農民 / 都市居住者 1800 15/1 1850 5.5/1
アメリカ合衆国 ニューヨーク市
3929000 (1790) 33000 200000人のみが町や村に住んでいた。
5000人以上が住むのは12のコミュニティ
23192000 (1850) 696000
- 交通 鉄道総マイル数 13マイル (1800) 8879マイル (1850)
- 通信
- フロンティア消滅へ
- 市場革命 嗜好品 輸入品
- 識字率
- 「自然」への注目 Whorton, J.C., *Nature Cures: The History of Alternative Medicine in America*, Oxford UP, 2002; Charles A. Miller, *Jefferson and Nature* The Johns Hopkins University Press, 1988; Catharine L. Albanese *Nature Religion in America: From the Algonkian Indians to the New Age*, The University of Chicago Press, 1990.
- リヴァイヴァリズム

ー 5 ユートピアの時代 「自然」コミュニティ



- フルーツランズ ブロンソン・オルコット
- ソーロー『森の生活』
- オナイダ・コミュニティ
- 宗教集団(アーミッシュ、ハタライト)

- Sutton, R.P., *Communal Utopias and the American Experience, Secular Communities, 1824-2000*, Praeger, 2004
- 「キリスト教非暴力・平和主義の底流」『クラブが創った国アメリカ』山川出版社、2005
- 「改革派キリスト教徒の共同体 オールド・セーラム」『北米の小さな博物館』彩流社、2006
- 『癒しの歴史人類学』世界思想社、2002

Ⅱ-6 アメリカ生まれの3つの教派

- セヴンデー・アドベンティスト
再臨思想（18c-19cアメリカ）ウィリアム・ミラー1782-1849（農夫）
再臨予言×
エレン・ホワイト1827-1915メイン生まれ 再臨思想家と結婚
本来土曜日が聖なる日 身体を浄化
世界数十カ国 400万人 ロマリンダ大学
- モルモン（末日聖徒イエス・キリスト教会）ジョゼフ・スミス（1805-44）
『モルモン経（けい）』アメリカ先住民の物語
1830 ニューヨークでモルモン教会 イエスの再臨 シオン（神の国）樹立。
オハイオ、ミズリー、イリノイ、ユタ州
多妻結婚 神からの啓示 原始キリスト教会 女性が「日の光栄王国」に達
するため。
- クリスチャン・サイエンス
メリー・ベーカー・エディ1812-1909
ニューハンプシャー 1875霊的体験
1876『科学と健康』45万冊 礼拝で読む。キリスト教一派として伝道開始
神の理論に従えば病気は治る。死を否定。
「クリスチャン・サイエンス・モニター」120カ国以上

ー 7 植物治療運動の変容・衰退と新たなオルタナティブ



- 形骸化：“social childbirth” “groaning party”
 - (女たちはロースト・ビーフとミンスパイ、上等のチーズそしてタルトで食事した。[S. Sewall, *The Diary of Samuel Sewall, 1674-1729*, entry for Nov. 21, 1694])
- 主張の変容(出産をめぐる人間関係の変容に対応)
- 1. 「夫の助産の勧め」(「補遺」*New Guide*, 1835)
- 2. 家族どうしの助け合い(植物友好協会)

- エクлекティクス(折衷療法)
- ホメオパシー(同毒療法) ~ 現代ヨーロッパ
- 20世紀の植物治療運動(トムソニアニズム)

— 8
現代のホメオパシー



クラン モンタナ(仏) スイス 1997



ログヴィル(独) スイス 1997

- 1 水治療運動(ハイドロパシー)

- 「極限」:自然の力の衰微
- 起源:オーストリアの農夫 V.プリースニッツ⁽¹⁷⁹⁹⁻¹⁸⁵¹⁾
- 医者が必要としない「健康」へ リーダーは医者
- 同時代のソーシャル・リフォームと連携
- 普遍 (世界)“Universal Reform” “pure soft water”
- アメリカにおける展開(1840s ~ 1860s)
 - ▣ 水治療所 ニューヨーク市(1840s)など213
 - ▣ 水治療医学校
 - ▣ *Water Cure Journal*(1845-1861)10万 読者参加

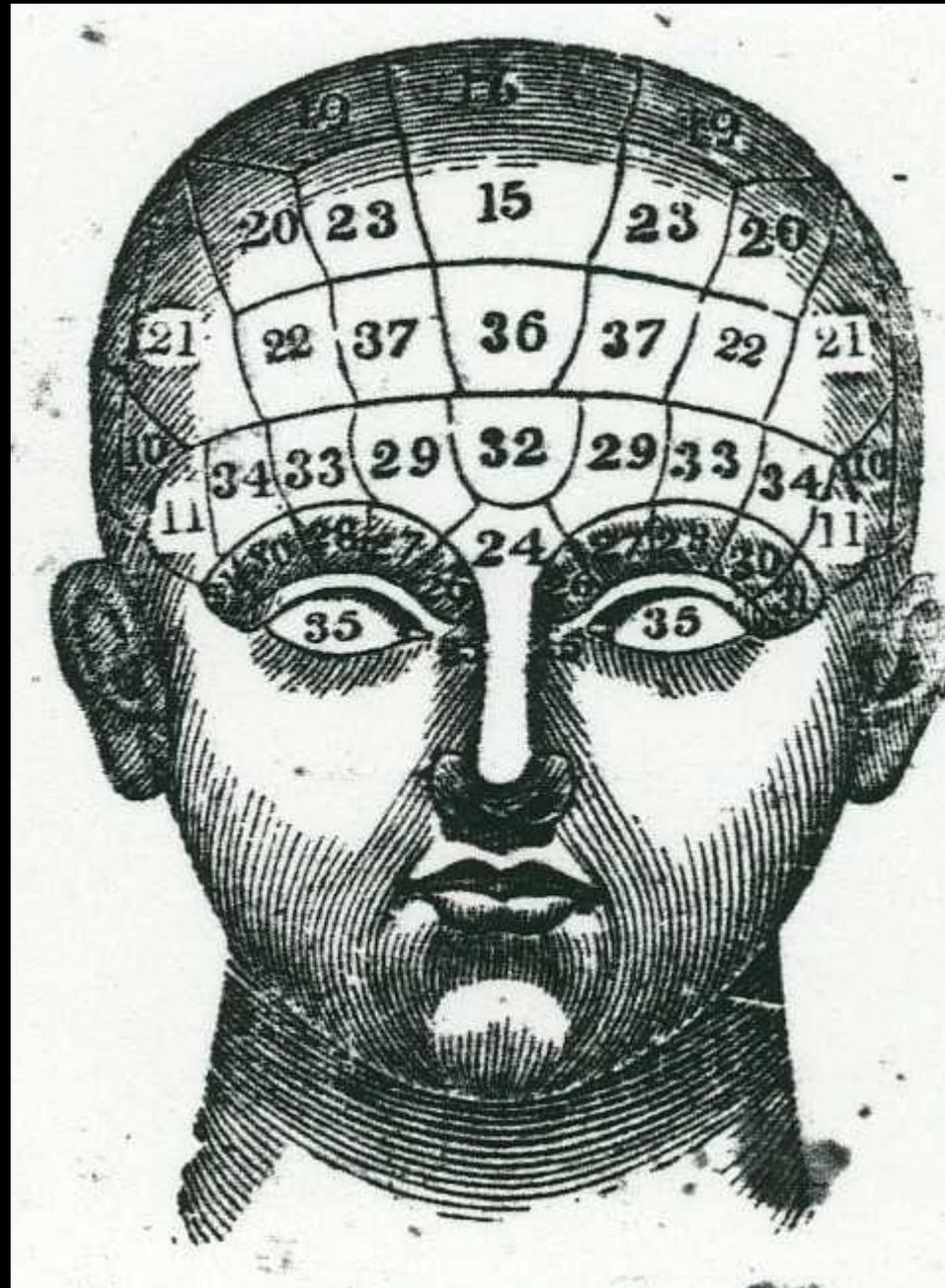
ー 2 様々な神経病 (Nervous Diseases) と原因の「発見」

- ヒステリー (hysteria) :
 - 感情、消化、紅茶・コーヒー、性的興奮、薬
- 精神混迷 (ecstasy) :
 - 動物磁気 (animal magnetism)
- ひきつけ (convulsions) :
 - 都市生活、大気汚染、水質、食事、タバコ
- 癲癇 (epilepsy) :
 - 恐れ、突然の激しい感情、胃腸の不調
- 半睡状態 (trance) :
 - 神経衰弱
- 舞踏病 (chorea) :
 - 恐れ
- ライフスタイル (農夫 ポーランド & ロシア 先住民)

－ 3 背景：骨相学

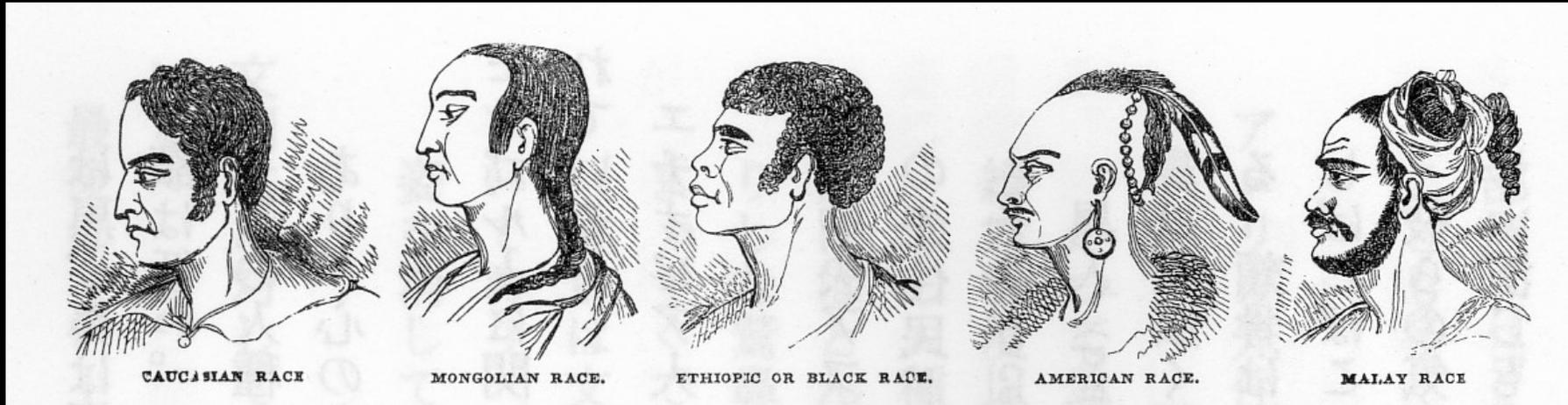
- 人間に関する新しい知：骨相学
- Franz Joseph Gall(1757-1828)「脳機能局在説」
「刑罰は犯罪者に応じて決められるべき」
刑務所 = 収容所 + 学校
- 「人種」と身体
- 人間の变革(教育)可能性
- George Combe(1788-1858)スコットランドの法律家
1820 イギリス初の骨相学協会 『骨相学雑誌』
The Constitution of Man, 1828(ベストセラー10万)
人種、民族、結婚と遺伝、召使いの選び方
「脳の器官は、運動、食養生、教育、環境で改善可能」
Essays on Phrenology, 1819(『性相學原論』)
- Cooter, R., ed., *Phrenology in Europe and America*,
Vol1-, Routledge, 2001-
『身体の徴から人を読み人を知る術とその社会的・文化的展開
の比較研究』平成14～16年度科学研究費補助金 基盤研究
(C)2) 研究成果報告書、2005年

- 4
骨相学
(Phrenology)に
関する考察



Graham, Sylvester, *Lectures on
the Science of Human Life*,
1839, p. 370

ー6 骨相学に基づく人種と気質・体質



Caucasian

Mongolian

Ethiopic

American

Malay

Trall, R. T., *The Hydropathic Encyclopedia*, New York, 1851

Shew, J., *The Hydropathic Family Physician*, New York, 1854

ブルーメンバッハの分類に従う。

「各々の人種の起源は一つかそれともその数だけあるのかわからない、とカーペンター博士は述べている。...そのことが、我々が自分たち以外の人種を取り扱うとき問題となる。より弱い人種が発達し改良されるのならより才能ある者と同様に配慮される資格がある。」(Trall, "Races of Men")

ー7 国勢調査と 人種・ エスニシティ

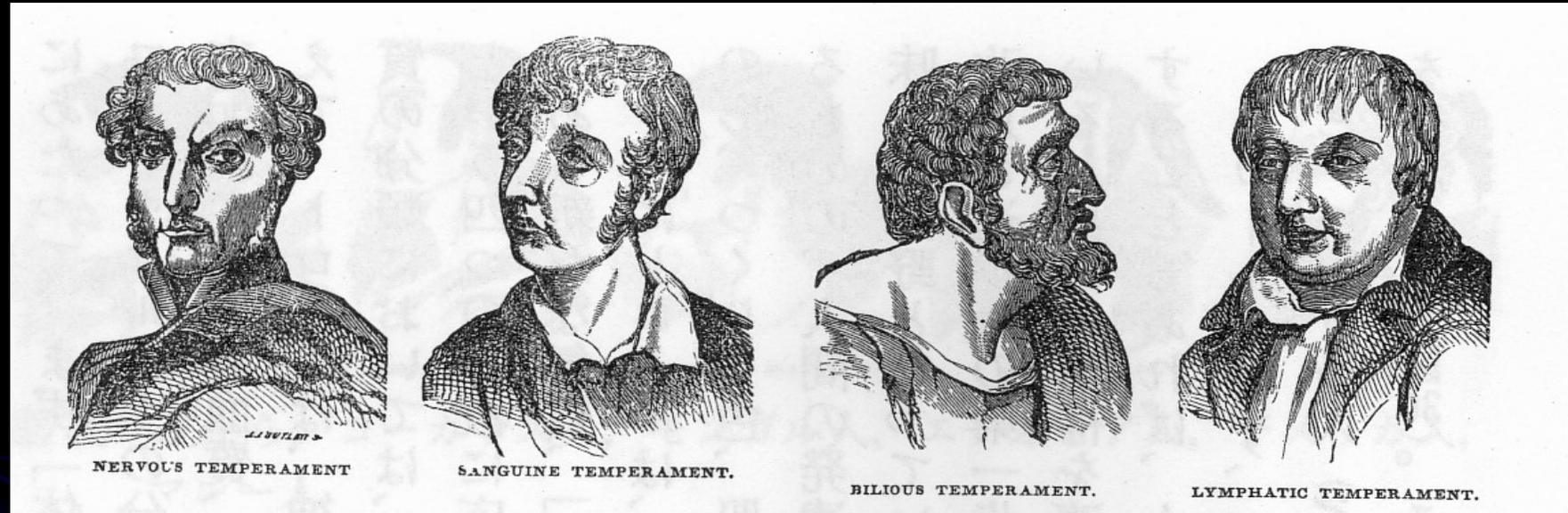
堀西健夫「奴隷制廃止後のアメリカ合衆国南部における人種の再構築 異人種間結婚等禁止法(Anti-Miscegenation Law)と白人男性支配の検討を中心に」
日本西洋史学会、2004

表 12-1 合衆国国勢調査による「人種」の分類の変遷

年	分 類
1790年	自由白人　その他すべての自由な人々　奴隷
1830年	自由白人　奴隷　自由黒人
1850年	白人　黒人 (Black)　ムラトー
1870年	白人　黒人　ムラトー　中国人　インディアン
1890年	白人　黒人　ムラトー　4分の1混血　8分の1混血 中国人　日本人　インディアン
1910年	白人　黒人　ムラトー　中国系　日本系　インディアン その他
1930年	白人　黒人 (Negro)　メキシコ系　中国系　日系 フィリピン系　ヒンズー　コリアン　インディアン その他の人種
1990年	白人　黒人　中国系　日系　フィリピン系　コリアン ベトナム系　インド系　グアム　サモア　ハワイ アリュート　エスキモー　インディアン (米)　その他の人種 その他のアジア太平洋諸島
2000年	白人　黒人　中国系　日系　フィリピン系　コリアン ベトナム系　インド系　その他のアジア系　ハワイ先住民 グアムあるいはチャモーロ　サモア　その他の太平洋諸島 その他の人種

(出所) Goldberg, D.T., *Racial Subjects: Writing on Race in America*, 1997
に追加。

一 8 気質と骨相学



神経気質
nervous

多血質
sanguine

胆汁質
bilious

リンパ質
lymphatic

Trall, R. T., *The Hydropathic Encyclopedia*, New York, 1851

ー 9 ヘルス・リフォーム

- 「第二の自然」の構築 “a second nature”
 - ー 服装
 - ー 運動
 - ー 食養生
- Walters, R., *American Reformers, 1815-1860*, Hill and Wang, 1978

— 10
水治療



頭浴



ウエット・シート・パック



足浴



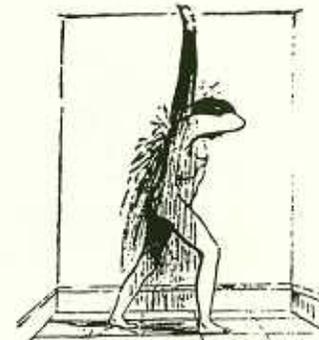
座浴



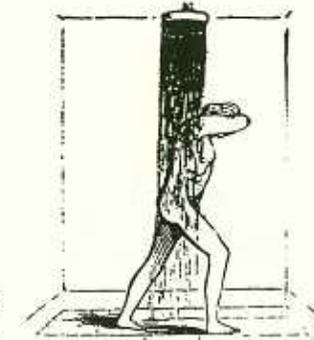
たらい浴



半身浴



灌水浴



シャワー浴



瀑布浴



ホース浴



ラビング・ウエット・シート



飛びこみ浴

Shew, Joel, *The Hydropathic Family Physician*, New York, 1854
(鈴木『出産の歴史人類学』151-152頁)

Ⅲ—11 “pure soft water”

- 「オーストリアのシレジアの山中では清浄な水が甘コウ(calomel)やアヘンよりもずっとよいというのなら、ロンドン、パリ、ニューヨークでも同じはず」
- 「クロトン(Croton)、スクーキル(Schuylkill)、そしてコチテュエイト(Cochituate)など良質の水が得られるようになった地域では、何枚かのシーツ、巻き布、そしてウォッシュタブがあれば行える新しい方法の実用性がすでに証明されている。」
- × ニューヨーク市の井戸のmineral water
- [Shew, *The Hydropathic Family Physician*, New York: Fowler and Wells Publishers, 1854.]

— 12

“The American and French Fashion Contrasted”

Water-Cure Journal, Vol. 12,
No. 4, 1851

96 THE WATER-CURE JOURNAL.



No. 1. THE AMERICAN COSTUME. No. 2. THE FRENCH COSTUME.

The American and French Fashions Contrasted.

We have with pleasure presented our readers with engraved views of the prevailing European and [proposed] American Fashions.

No. 1 represents Mrs. ANNETT BLOOMER, of Seneca Falls, N. Y. It was engraved from a Daguerrotype for the *Commons Chief*, an excellent newspaper published in Auburn, N. Y., and kindly loaned to us by Mr. THOMAS W. BROWN, the gentlemanly proprietor.

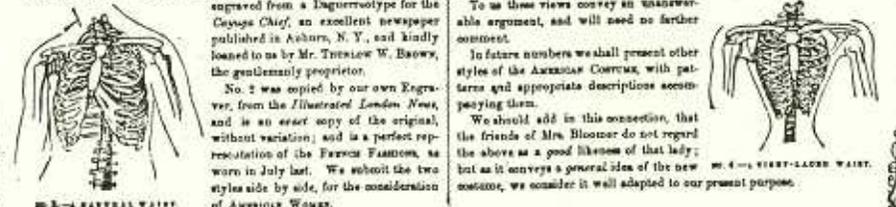
No. 2 was copied by our own Engraver, from the *Illustrated London News*, and is an exact copy of the original, without variation; and is a perfect representation of the FRENCH FASHION, as worn in July last. We subjoin the two styles side by side, for the consideration of AMERICAN WOMEN.

We also append, as an accompaniment, the anatomical views of a natural waist and an artificial or tight-laced waist, corresponding with Numbers 1 and 2 of the larger figures.

To us these views convey an unanswerable argument, and will need no further comment.

In future numbers we shall present other styles of the ANATOMICAL COSTUME, with patterns and appropriate descriptions accompanying them.

We should add in this connection, that the friends of Mrs. Bloomer do not regard the above as a good likeness of that lady; but as it conveys a general idea of the new costume, we consider it well adapted to our present purpose.



No. 1.—NATURAL WAIST. No. 2.—TIGHT-LACED WAIST.

— 13
服装改革
(Dress Reform)

ニューヨーク州ダンスヴィルの水治療所「私たちの丘の家」で着用された「アメリカの服 (American costume)」
Donegan, J. *Hydropathic Highway to Health*, 1986, p. 150



— 14
服装改革
(Dress Reform)

「アメリカの服」を着用した
Harriet N. Austin, M.D.
(1825-1891)。水治療運動家、
*Laws of Life*の著者、全国服
装改革協会事務局長
(Donegan, J. *Hydropathic
Highway to Health*, 1986, p.
149)



Ⅲ-15 ハイドロパシー

ダイエット・リフォーマー、菜食主義者、教育者

- ◎ J. Shew : M.D. 水治療者
- ◎ R. Trall: M.D. 水治療者
- ◎ S. Graham ダイエット・リフォーマー
- ◎ W. Alcott, M.D. 教育者 社会改革者
- ◎ C. Beecher ドメスティック・リフォーマー

Ⅱ-16 最もよいパンづくりの心得

- ◎ coarse-ground, unbolted meal
- ◎ × groceries and provision stores
- ◎ pure soft water(水道水)
- ◎ × grease, shortening
- ◎ × raising or fermentation
- ◎ × prepared according to the recipes of “French” and “domestic” cook-books
- ◎ × baker’s shop, × hotel, boarding-houses

- ◎ [Trall *Hydropathic Encyclopedia*, 424]
- ◎ ルイザ・メイ・オルコット「超絶主義のカラスムギ」

— 17 There is no School like the Family School



Engraved by O. Felton

"There is no School like the Family School"

Alcott, William A., *The Young Husband, or Duties of Man in the Marriage Relation*, Boston: George W. Light, 1841

— 18 職を求めるアイルランド移民



Harpers Monthly, 1853, 3 (山田史郎ほか『移民』1998年、247頁)

ー 19 新しい食文化の提案



- 伝統ではなく
- 新しい移民でもなく
- 家族を基盤 「核家族の食卓」新しいスタイル
- アソシエーション
- ライフスタイル ミドルクラス

- Suzuki Nanami, “A way of Lifestyle of 19c Americans: Popular Health Movements and Diet Reform,” *The Japanese Journal of American Studies* (The Japanese Association for American Studies), 2010
- 「ダイエット・コスモロジーの近代 - 食と健康」『岩波講座 宗教7 生命 生老病死の宇宙』岩波書店、2004年
- 「『完全な身体』の希求 『母の帝国』における菜食主義」『ジェンダーで学ぶ宗教学』世界思想社、2007年
- Sack, D., *Whitebread Prtestants: Food and Religion in American Culture*, Palgrave, 2000.
- Williams, S., *Food in the United States, 1820s-1890s*, Greenwood Press, 2006

おわりに

- 「極限」(変動・認識):
 - 専門職 都市化 フロンティアの消滅
 - 弱体化 神経病
 - フロンティアの提示:新しい「アメリカ」を生きる
 - セルフ・ヘルプ 自律 自由 コモン・マン
 - 自律 完全を目指す 志を同じくする人々
-

総合討論におけるコメントと感想

- 私の発表は、フロンティアがなくなっていく時期に、「自然」「人間関係」をどのように考えたかを、検討したものです。この時期に都市へ出た人々の中には、「核家族だけで食事するのでびっくりした」、と体験を語っている者もいました。
- フロンティアに行く人たちが、生活に困ってフロンティアへ行き極限に晒されて対処を考えるというだけではなく、フロンティア、つまり極限を求めていくという行動に注目しました。
- なぜフロンティアに行くのか。それは、信念を実現するため、その自由を確保するためです。たとえばアーミッシュは、今も、信条を守るのに適さないほどに都市化したと考えると、新しい場所へ移動して、具体的なスペースを求めています。
- フロンティアで新しい理想の場所を作ってゆくためには、誰と生きるか、どのように生きるかを、常に検討しなければなりません。
- 現代の諸問題である、エコや死への態度にしても、一人で決めて実践できるわけではありません。共生のコミュニティ・デザインを考える上でも、フロンティアに極限を求めてゆく人たちの活動は参照できるものでしょう。
- 極限を生きる人々の活動には、鴨長明に関するご講演にありましたように、創作・表現がありました。それは、人間がコミュニケーションしたいとか、共鳴したいとかいう希望を抱いていることと関係しているでしょう。極限を考えることは、人間について考察を深めることにほかなりません。